

事業の背景・目的

近年、手賀沼及び印旛沼とその流域河川に生育するヨシ、ヒメガマなど外来種の群落へ侵略し、急速に分布を拡大している特定外来生物であるナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイを駆除することにより、在来水生生物への影響を低減させ、当該水域の生物多様性の保全を図る。

事業の内容

繁茂状況調査の実施により現状の繁茂状況を確認するとともに、令和元年度（手賀沼）及び令和3年度（印旛沼）に策定した駆除計画に基づき、駆除優先度が高い区域から順次、ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイの水草刈取船による駆除を進める。

事業① 繁茂状況調査【手賀沼】

大堀川及び手賀沼北西部における現状のナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイの分布範囲及び繁茂面積を把握するため、繁茂状況調査を行った。



事業② 水草刈取船による駆除【印旛沼】

高崎川、鹿島川及び西印旛沼南東部において、水草刈取船により、2万平方メートルのナガエツルノゲイトウの駆除を実施した。



事業③ 巡回・監視業務

（交付金事業外の事業と併せて実施）

手賀沼水環境保全協議会が再繁茂監視・駆除を試行するにあたり、手賀沼での駆除や繁茂状況調査で得られた障害物や危険箇所に関する情報を提供し、試行場所の選定や作業人数等について助言し、巡回・監視方法を検討した。

得られた成果

- ・大堀川及び手賀沼北西部の繁茂状況のほか、水深や周辺の状態を把握することにより、今後の水草刈取船による防除にあたり、より効果的な手法を検討できた。
- ・手賀沼水環境保全協議会で実施可能な駆除作業の規模が分かったことから、当協議会の事業実施を前提として本県による駆除の時期や内容の改善を図ることができた。
- ・手賀沼及び印旛沼とその流域河川におけるナガエツルノゲイトウ及びオオバナミズキンバイの防除について千葉県ホームページやTwitter千葉県水草バスターズで情報発信することにより、周辺地域の関心をより高められた。